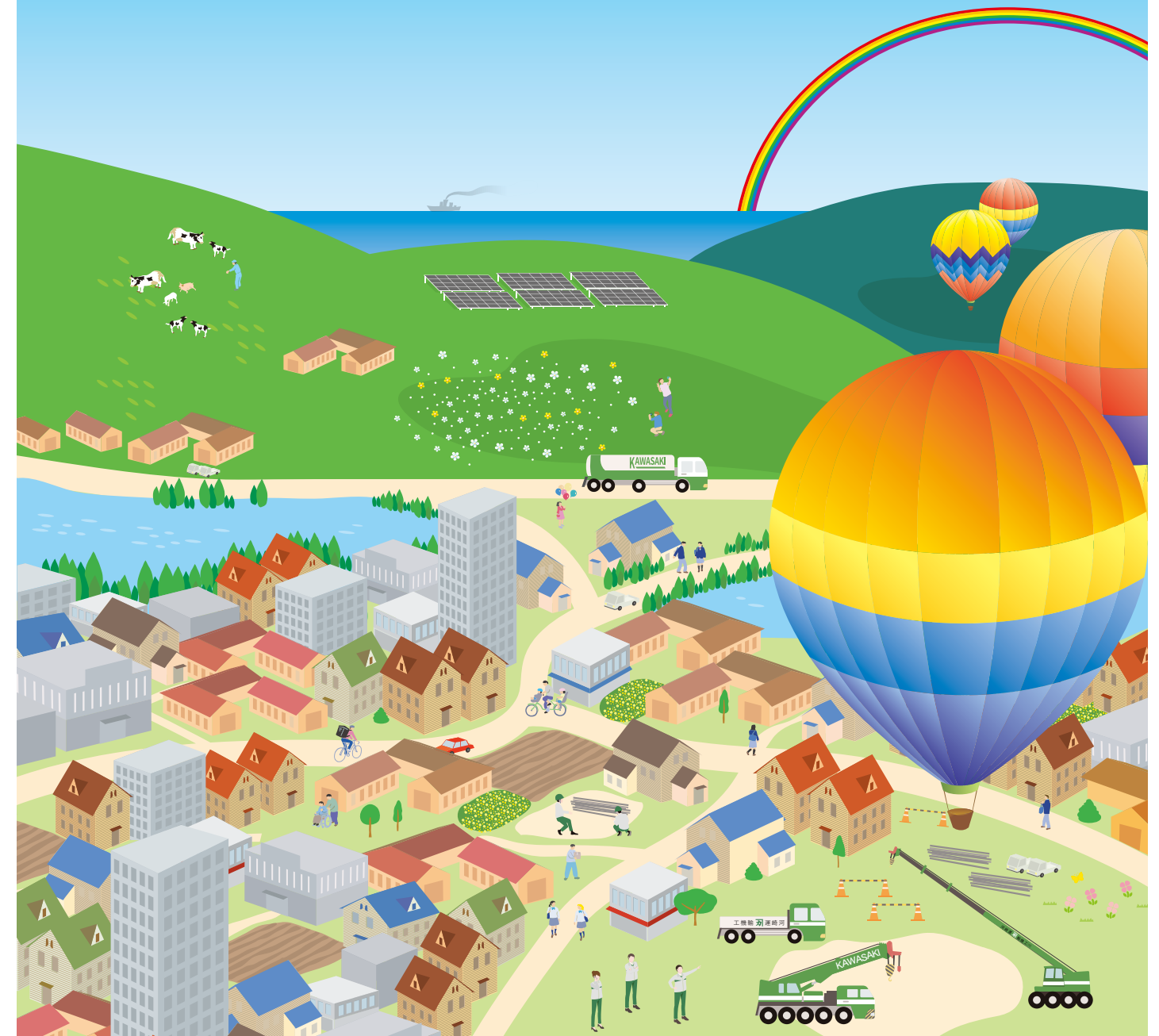


# S U S T A I N A B I L I T Y R E P O R T 2 0 2 4



と、ともに。

河崎運輸機工株式会社  
サステナビリティレポート 2024



地域未来牽引企業

経済産業省選定

# SUSTAINABILITY REPORT 2024

|                               |      |
|-------------------------------|------|
| 目次・編集方針                       | P. 1 |
| スローガン・社是・経営理念・10年ビジョン         | P. 2 |
| 事業プロフィール                      | P. 3 |
| ガバナンス体制・取締役の役割/財務・労務ハイライト     | P. 4 |
| グループ全体像・グループ会社拠点一覧            | P. 5 |
| トップメッセージ                      | P. 6 |
| 対談企画「地域と企業の共生」ー岩国市長と当社社長との対談ー | P. 7 |
| サステナビリティ基本方針/サステナビリティに関する指針類  | P. 9 |
| 中期経営計画とCSR                    | P.10 |
| 河崎運輸機工全体のビジネスモデル              | P.11 |
| 業務執行体制/事業の優位性となる経営資源          | P.12 |
| 河崎運輸機工のサステナビリティの射程            | P.13 |
| ESGに関するマテリアリティおよびアクションプラン     | P.14 |
| 環境(E)に関するアクションと成果             | P.15 |
| 環境(E)に関する集計データ                | P.17 |
| 社会(S)に関するアクションと成果             | P.19 |
| 組織統治(G)に関するアクションと成果           | P.21 |
| 社員の声                          | P.23 |
| ステークホルダーコメント                  | P.25 |
| 来期の展望・編集後記・奥付                 | P.26 |

## 編集方針

本レポートは河崎運輸機工のサステナビリティについて報告する第2号目として発行しました。当社では本レポートの発行と並行してサステナビリティ関連の体制、取り組みを整備しております。今後、試行錯誤を繰り返しながら、そのパフォーマンスを高め、より適切な形でステークホルダーの皆さまにご報告できるよう、努力してまいります。

・報告期間 2024年4月1日～2025年3月31日

・報告対象組織 河崎運輸機工株式会社(グループ企業を除く)

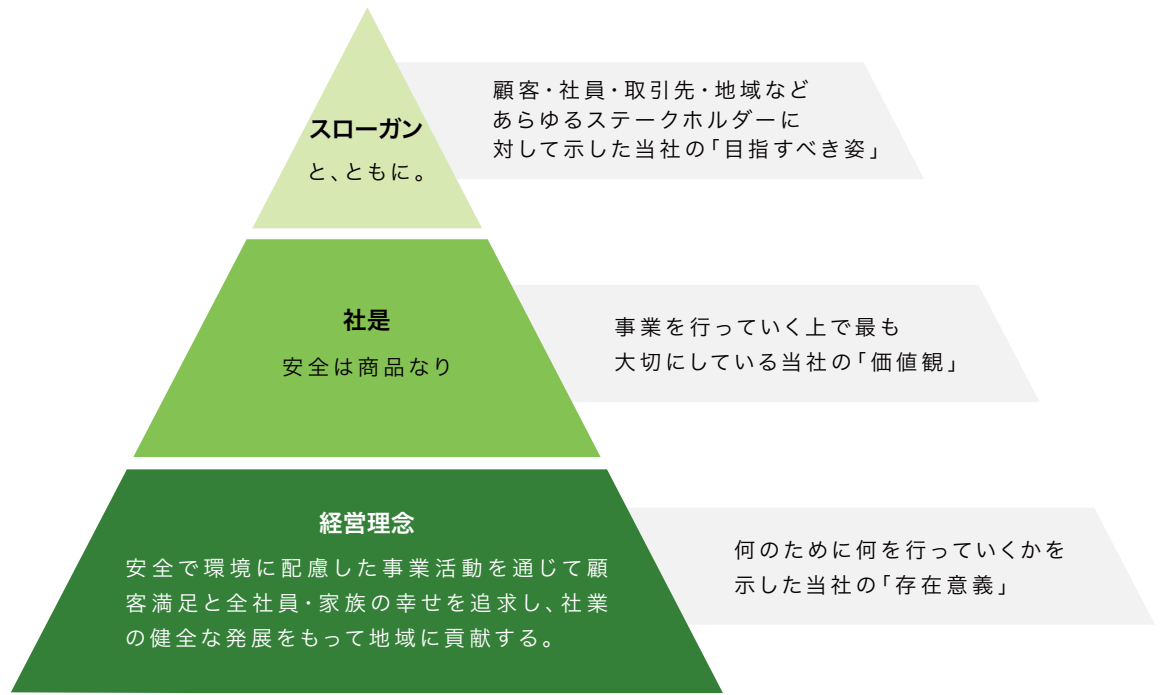
・発行年月日 2026年1月1日

・参考としたガイドライン類 経済産業省『価値協創ガイドライン2.0』環境省『環境報告ガイドライン(2018年版)』



# スローガン・社是・経営理念

当社は経営理念に基づいた事業を社是で示した価値観をもって遂行し、スローガンで描いた姿の実現を目指して企業活動を行っています。



## 10年ビジョン・スローガン

社会が大きく変革し、主要顧客である化学工業・エネルギー産業・建設業が事業転換を加速させることを大きなチャンスととらえ、「ベストパートナー」として顧客と社会のニーズをいち早く把握し、迅速にサービスを創造・提供いたします。また、既存のサービスについても単体ではなく、パッケージで提供できる体制の整備を行うため、端的な表現として下記のビジョン・スローガンを掲げました。

ビジョン

工事から物流まで。  
世界で戦う日本の製造業、  
エネルギー産業、建設業の  
競争力を中国地方から  
支えるベストパートナー

スローガン

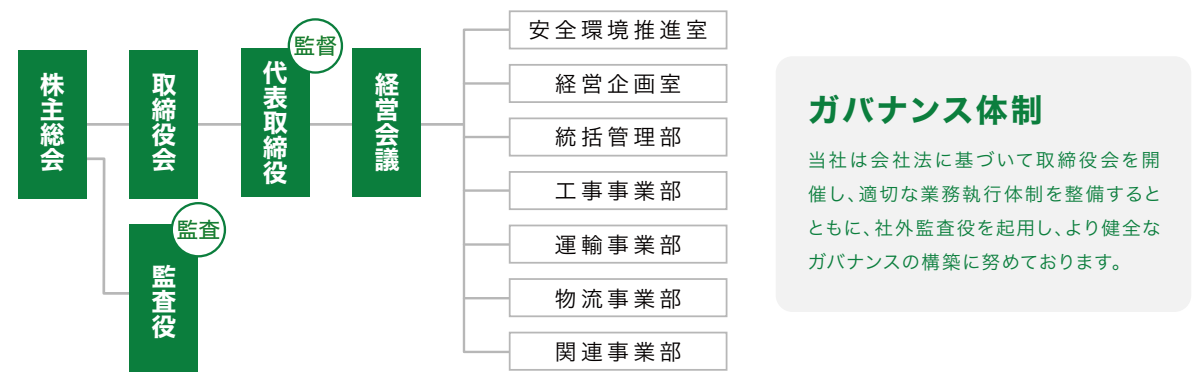
と、ともに。



|         |                    |         |                  |
|---------|--------------------|---------|------------------|
| 商号      | 河崎運輸機工株式会社         | 資本金     | 5,000万円          |
| 代表取締役社長 | 河崎 静生              | 代表取締役専務 | 原 真              |
| 創業年     | 1919(大正8)年3月       | 設立年     | 1948(昭和23)年7月28日 |
| 従業員数    | 291名(男性258名 女性33名) |         |                  |

- ・貨物自動車運送業
- ・プラント工事の設計及び施工
- ・一般建設業
  - 建築工事業、消防施設工事業
- ・特定建設業
  - 機械器具設置工事業、水道施設工事業、  
管工事業、石工工事業、鋼構造物工事業、  
舗装工事業、土木工事業、塗装工事業、  
とび・土工工事業、建築工事業、しゅんせつ工事業
- ・沿岸荷役及び海上運送業
- ・建設機械及び荷役機械賃貸業

- ・超高压洗浄業
- ・産業廃棄物運送
- ・廃棄物処理機の設計、製作及び販売
- ・倉庫業
- ・損害保険代理業
- ・労働者派遣業
- ・不動産の売買、賃貸借、仲介及び管理に関する事業
- ・揮発油、灯油、潤滑油その他石油製品の販売
- ・解体工事業
- ・前各事業に附帯する一切の業務



当社は会社法に基づいて取締役会を開催し、適切な業務執行体制を整備するとともに、社外監査役を起用し、より健全なガバナンスの構築に努めております。

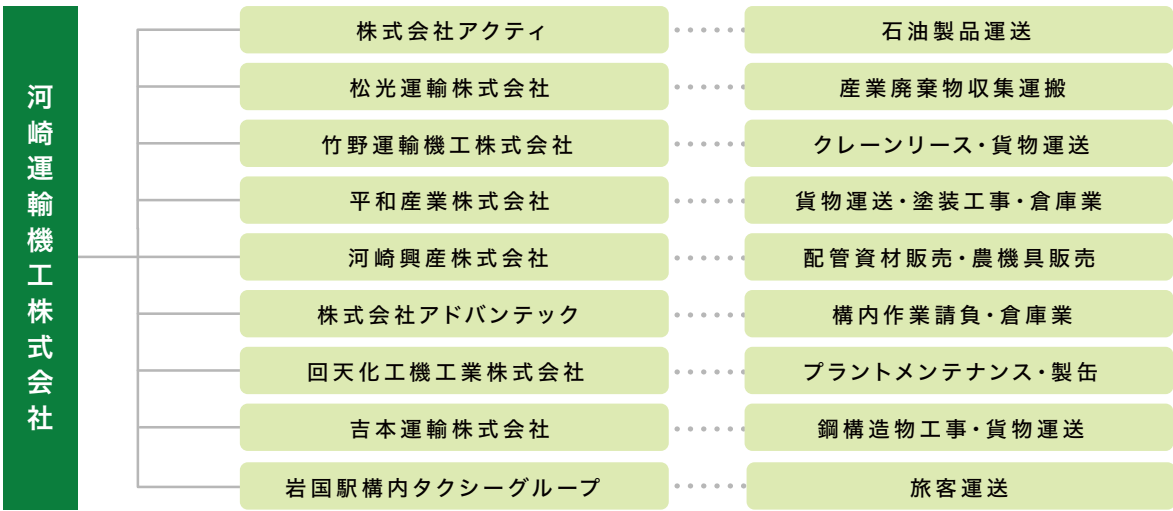
全取締役の出席する毎月の取締役会に加え、事業部長の出席する経営会議を毎週実施し、役員を含む人事および組織体制、事業の執行状況、その他業務における重要事項について監督しています。各取締役および事業部長の業務管掌は左のとおりです。

当社の売り上げは、主要顧客の大型工事が2年に一度実施されるため、隔年で山谷が発生します。しかしながら、山も谷も中期的に右肩上がり、成長してきており、コロナ禍でもその傾向は大きく変わっていません。

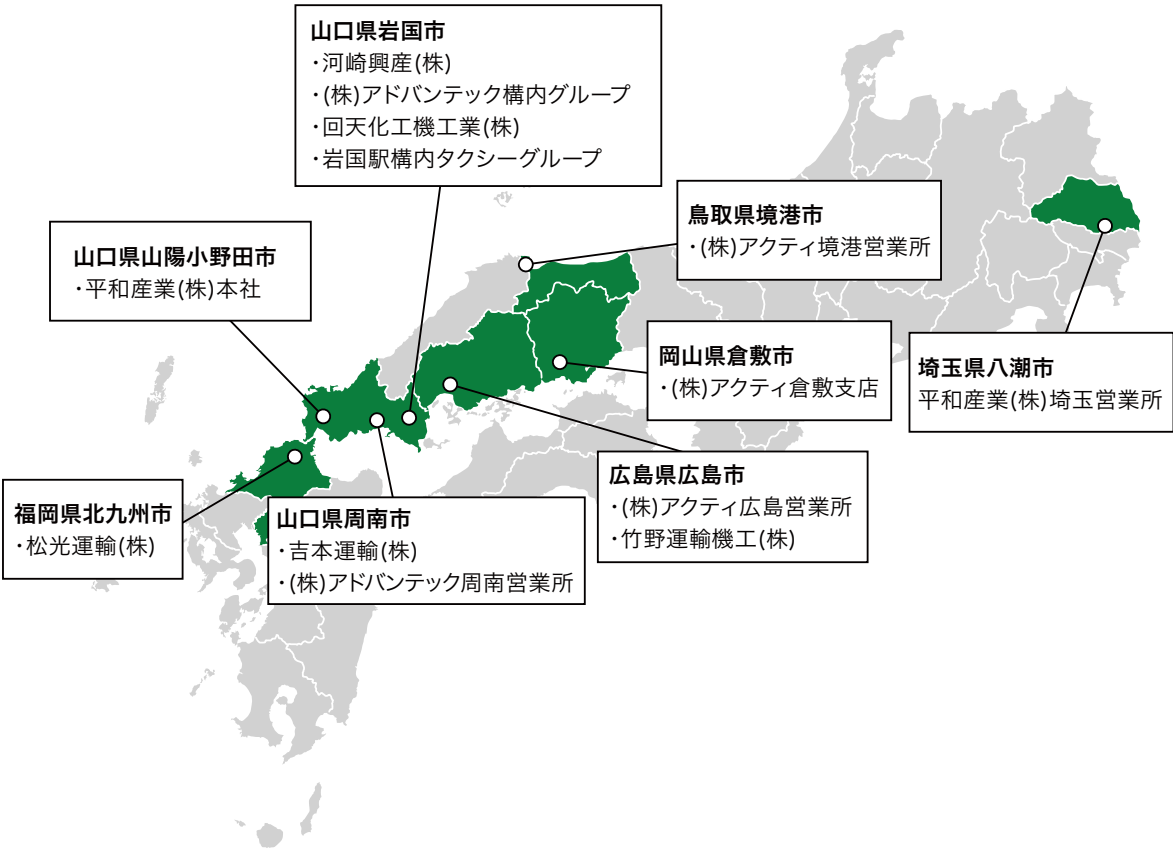


# グループ全体像

中国地方において、主力事業の運輸・工事・物流を中心とした多種多様な事業をグループ会社とともに展開しております。



# グループ会社拠点一覧



# トップメッセージ



このたび、当社として第2号となるサステナビリティレポートを発行し、皆さまにお届けできることを、大変うれしく思います。昨年発刊した創刊号では、当社のビジネスモデルやCSRの基本的な考え方、そしてESGそれぞれの課題とアクションプランをお示したところ、多くのお客さまやお取引先からご意見を頂き、改めて「社会に必要とされる企業であり

続ける責任」を強く認識いたしました。アクションプランに対する前期の取り組みを振り返りますと、環境(E)に関しては、まず当社の事業を通じた環境負荷について、データを計測・収集する体制づくりを行いました。今後は各種負荷の低減策の立案と実行に取り組みますとともに、より簡単にデータを計測・収集する仕組みの構築にも取り組んでまいります。

社会(S)に関する取り組みでは、安全と人材育成というこれまでの取り組みを継続・深化させるとともに、生産性の向上についての体制整備を行いました。生産性向上については今期以降で、システムの導入・刷新など具体的なアクションを実行していきます。

そしてガバナンス(G)においては、各種方針について、策定し社内周知を行いました。今後は報告・集計体制の整備に努めてまいります。

サステナビリティレポートの作成を通じて、社内に対しても当社のCSRの取り組みを示すことができましたが、まだまだ、その取り組みが全社的なムーブメントとなるまでには至っていません。アクションプランの取り組みにしっかりと実効性を持たすことができるよう、今期以降も情報の発信と研修等を通じて、粘り強く社内浸透に取り組んでまいります。

カーボンニュートラルの流れ、物流業界・建設業界での労働時間規制など、私たちを取り巻く事業環境は大きく変化し続けています。当社としては、こうした変化に対して防衛的に対応してだけでなく、新たな成長の機会として捉え、事業を通じて当社と社会の持続可能性に寄与できる取り組みを、今後も積極的に進めてまいります。

引き続き皆さまのご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

河崎運輸機工株式会社  
代表取締役社長 河崎 静生

# 対談企画「地域と企業の共生」



## 岩国市長と 当社社長との 対談

山口県岩国市長

福田 良彦

### 地域の歩みと企業の責任

**河崎社長**：まず、本日はこのような対談の場を実現することができ大変うれしく思っています。福田市長、ありがとうございます。当社は1919（大正8）年の創業以来、地域とともに事業を続けてまいりました。創業当初は船舶の輸送・整備から始まり、現在はプラントメンテナンスや石油輸送などを手がけています。地域の支えがあってこそ今日があります。地域とともに活動してきたことを誇りに感じ、2年前に「と、ともに。」をスローガンに掲げ、さまざまな地域行事や活動に参加しています。

**福田市長**：こちらこそ、この対談を楽しみにしていました。創業から一世紀を超えて、岩国に根ざし地域の産業インフラを支え続けてこられたことは素晴らしいことです。貴社のスローガン「と、ともに。」は岩国市が目標とする市の将来像「ともに歩み、ともに創り、ともに輝く」にも通じる理念だと感じます。地域と企業、そして行政が互いに支え合う姿勢の重要性を改めて感じました。

### 現在取り組んでいる地域貢献活動

**河崎社長**：地元採用を中心に雇用を守ることでも地域貢献の一つと考えています。地元で働き、家族と暮らし、子どもの成長を見守ることができる環境を守りたいという思いで清掃活動や神社の行事など、地域イベントに参加しています。また、東日本大震災では、当社のタンクローリー車を3台派遣しましたが、その際、多くの社員が積極的に志願してくれ

ました。社員全員が崇高な志を持って取り組んでくれたことが印象的でした。この志は、日常の地域貢献を通して培われたものと確信しています。地元企業の地域貢献について、市長は何を期待されておられますか？

**福田市長**：雇用の継続や地域行事への支援は、地域の活力を維持する大きな地域貢献です。御社をはじめ、地域の企業さまの清掃活動、防災協定、地域イベント参加など幅広い活動は市民の安心・安全につながっていると感謝しています。

### 社員とともに取り組む地域貢献

**河崎社長**：色々な地域行事では、地域参画につながるものとして、運営に携わっていない社員が家族連れで参加しています。ほかにも当社では、子ども食堂への支援を実施しています。単なる資金提供ではなく、「無事故の成果を寄付金に換算」する仕組みです。このような仕組みにより、社員の地域支援への関心を高めるとともに、社員全員の安全意識向上を図っています。

**福田市長**：社員とその家族を含めた地域参画こそが地域貢献の理想的な姿だと思います。また、このような形で子ども食堂への支援は、地域支援にとどまらず安全意識の向上と地域の安心づくりに大きく寄与していると感じました。

「地域と企業の連携による  
地域貢献のあり方」について、  
当社の河崎社長が岩国市の  
福田市長へお話を伺いました。

河崎運輸機工株式会社  
代表取締役社長

河崎 静生



### 地域課題への関心と企業の役割

**河崎社長**：岩国に限らず、大都市圏以外の地域の課題は「若者の定着」と「防災」だと思っています。当社は地域貢献を続けながら働きがいのある企業として、選ばれたいと考えています。また、防災体制を整えながら、災害発生時には当社の車両を活かした地域への支援も可能です。

**福田市長**：岩国市でも高齢化、若者流出、脱炭素など多くの課題があります。企業と市民、そして行政が一致協力して取り組むことにより、明るい未来につながると考えています。そのためにも行政として企業と市民への支援を続けていきたいと考えています。

### 若者育成・教育分野での連携

**河崎社長**：若者の育成のためには地元企業の魅力を伝えることが重要です。私たちも学校に出向いて職場体験や出前授業を行っています。また、インターンシップを通じて地元の大学や高校と連携し、「地元にも面白い会社がある」と知ってもらえることが一番の狙いです。

**福田市長**：岩国市としても、キャリア教育やインターンシップ推進を企業と連携して進め、企業紹介の機会を増やしています。若者が地元で働くことに誇りを持ってもらえるよう、行政と企業が一体で環境づくりを進めていき、「岩国で働く魅力」を発信していきたいと考えています。

### 官民連携のこれから

**河崎社長**：行政と企業が垣根なく連携し、挑戦する姿勢こそが必要だと思います。まずは「やってみよう」という精神で失敗を恐れず行動することが「街の活性化」につながると考えています。

**福田市長**：地域の課題を解決するためには、行政だけでなく企業のチャレンジングな姿勢も不可欠です。今後も地域企業の意見を積極的に取り入れ、連携をさらに強化していきたいと考えています。



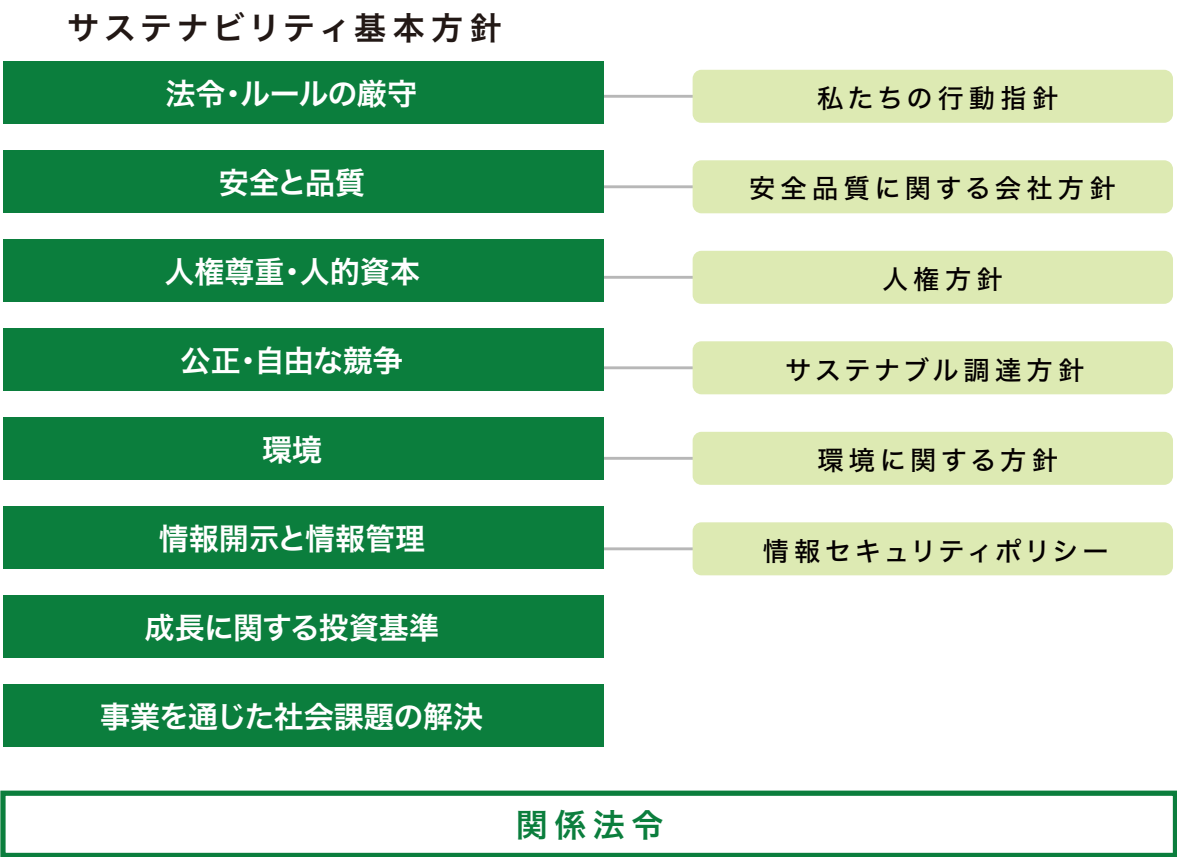
今回の対談を通じ、企業と行政が手を取り合うことで地域の未来を切り開いていけると、改めて感じました。

# サステナビリティ基本方針

当社では「社会の持続的発展」と「当社の企業価値の持続的向上」の両立を目的として基本方針を定め、全ての企業活動を本方針に基づき、責任をもって実行します。また、サステナビリティ基本方針は、当社のESGへの重要課題としてとらえており、後記(P.14～P.22)のアクションプランへの取り組みにつながっています。

## 基本方針や指針類の関係性について

持続可能な社会の実現のために、企業が求められる社会的責任は変化しています。後述する重要課題やアクションプランを進めていくうえでの基礎となる取り組みを、方針やポリシーにまとめました。サステナビリティ基本方針の各項目に関連付けて、より具体的な方針・ポリシーを策定します。



中期経営計画について説明している様子

# 中期経営計画とCSR

当社では事業を通じ、社会と自社のサステナビリティ実現のため、2024年4月に「安全」・「売上」・「利益」・「労働環境」・「CSR」の5つの目標を設定し、それぞれの目標達成のための取り組みを検討した3か年の中期経営計画を策定しました。中期経営計画の目標達成のための取り組みについて経営理念と社是、10年ビジョンとの関係性を整理すると、下記の図のとおりとなります。当社の存在意義であり、究極の目標が経営理念であり、それを具現化する時に最も大切な価値観が社是となります。そして、これらに基づいて10年後のありたい姿を描いたのが10年ビジョンであり、その実現のために、何を実行していくかを中期経営計画で定めています。この目標設定と取り組みの基準となるのが、先に解説した「サステナビリティ基本方針」となります。

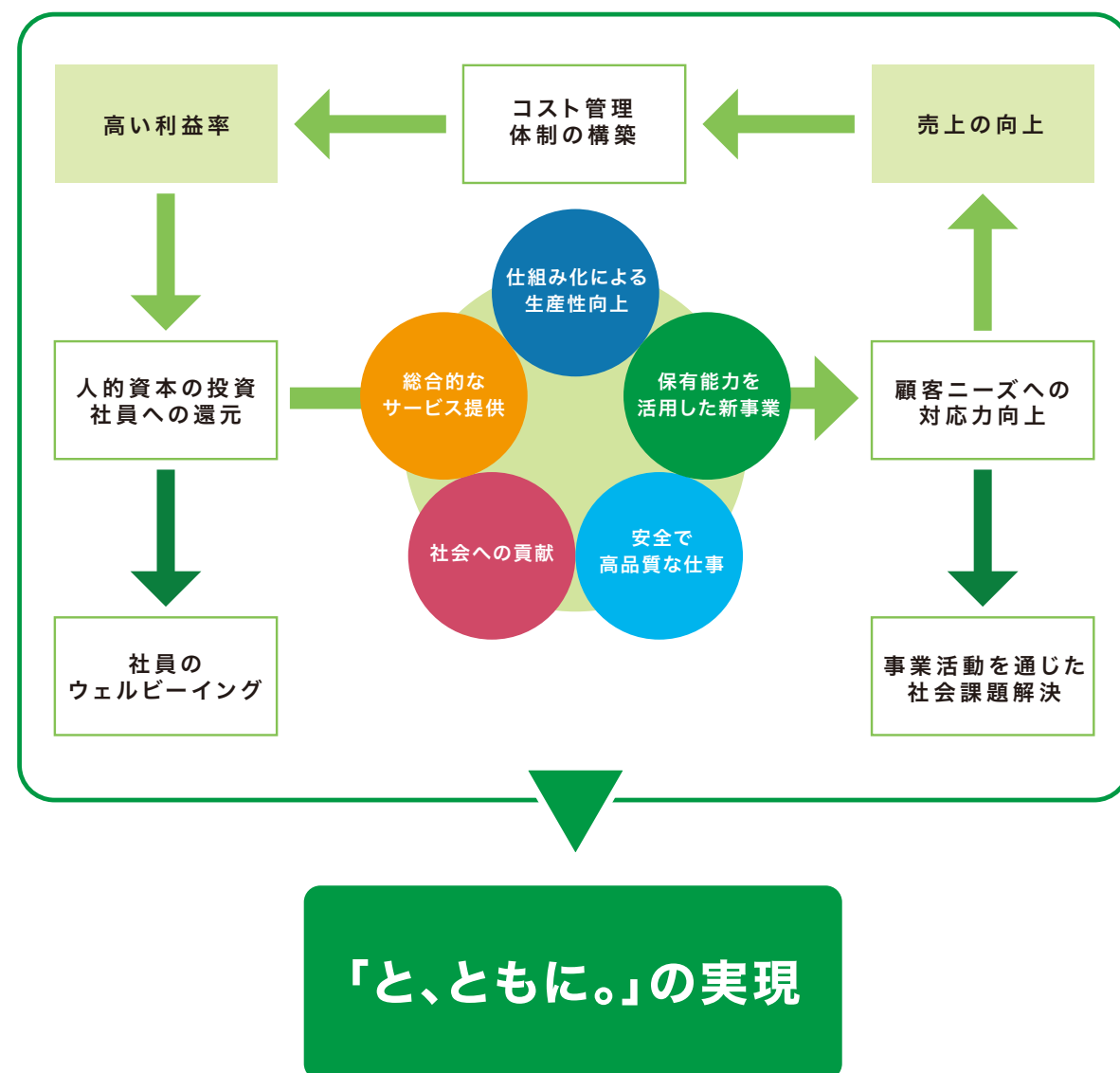


## サステナビリティ基本方針



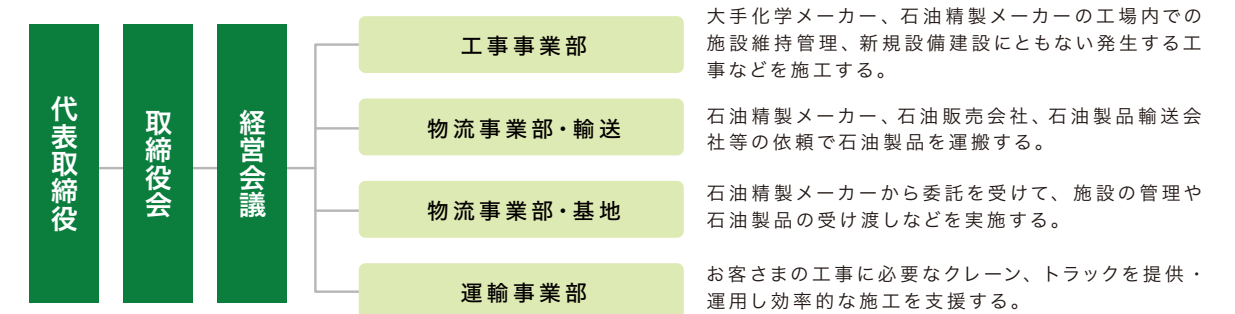
## 河崎運輸機工全体のビジネスモデル

当社は「と、ともに。」のスローガンのもと、プラント工事・運輸・エネルギー物流の3つの事業を軸に、お客さま、社員、地域の皆さまから「ベストパートナー」として必要とされ続けるビジネスモデルの構築・推進に取り組んでいます。



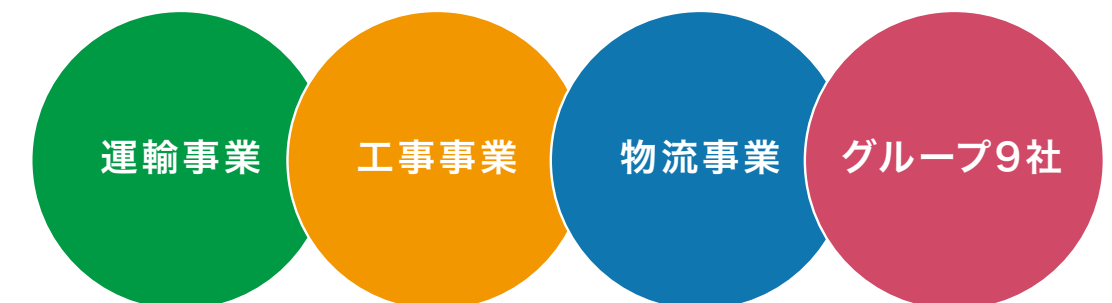
## 業務執行体制

当社では取締役会で基本方針や経営方針を策定し、経営会議でその実現のための具体的な方法を検討後、工事事業部、物流事業部（輸送・基地）、運輸事業部の3事業部で実行する体制となっています。



## 事業の優位性となる経営資源

当社では、運輸・工事・物流部門・グループ9社で多様なリソースを擁し、お客さまのニーズにワンストップで安定的に応える総合力を備えています。今後も脱炭素経営などのお客さまの新しい挑戦をサポートし続け、中国地方におけるベストパートナーを目指します。



河崎運輸機工のサステナビリティの射程

当社ではサステナビリティに関する課題をESG(環境、社会、組織統治)の枠組みで整理し、当社が果たすべきCSRを定めています。そして、その実践はSDGs(持続可能な開発目標)の実現に資するビジネスへつながるものと考えています。なお、当社ではESGのうち、Gを中核に置いていますが、これは当社の組織統治(ガバナンス)が環境と社会に影響するとの考えに基づくものです。

| 課題             | Environment (環境)                        | Governance (組織統治)                               | Social (社会)                |
|----------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------|
| 社会<br>顧客<br>当社 | 環境への貢献(地域)<br>環境負荷に比例した対策<br>地域の生態系への対策 | 企業理念<br>ありたい姿を支えるメンバーの<br>ガバナビリティ向上             | 社会への貢献(地域)<br>社会の人権の擁護・増進  |
|                | 環境への貢献(広域)<br>環境負荷に比例した対策<br>広域の生態系への対策 | 「と、ともに。」の河崎運輸機工の<br>実現(自社のありたい姿)                | 社会への貢献(広域)<br>社内外の人権の擁護・増進 |
|                | 環境負荷低減<br>事業による環境負荷の最小化                 | 社会と顧客が求めるレベル・<br>クオリティのガバナンス<br>(ビジネスへの参加資格)の確保 | 自らが生み出す<br>社会課題の最小化        |



ESGに関するマテリアリティおよびアクションプラン

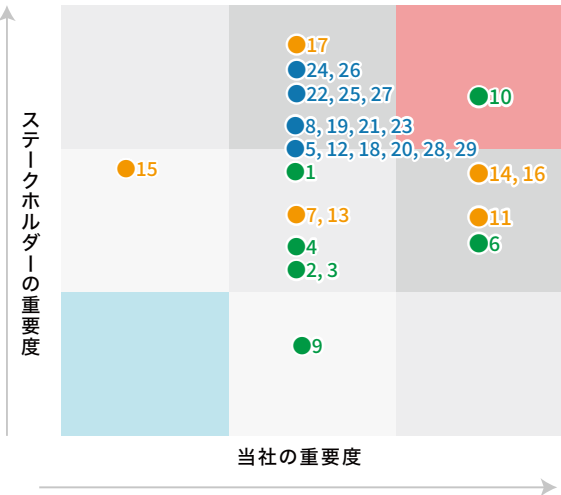
当社では前ページ下部の課題に取り組むため、ESGのテーマに対応した重要課題(マテリアリティ)を特定し、この表のように、アクションプランを定めています。

| 環境(E)・・・1~10    社会(S)・・・11~17    組織統治(G)・・・18~30                       |                                              |         |      |
|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------|------|
| A(取り組み開始予定または再強化を予定している項目)    B(取り組みを開始した項目)    C(前期以前から取り組みが定着している項目) |                                              |         |      |
| 通し番号                                                                   | アクションプラン                                     | タイムスケール | 着手状況 |
| 1                                                                      | 連絡車の環境対応車への計画的移行                             | 長       | B    |
| 2                                                                      | 車両のCO <sub>2</sub> 、NO <sub>x</sub> ・PM排出量削減 | 中       | C    |
| 3                                                                      | 連絡車のエコラン徹底・定着                                | 中       | C    |
| 4                                                                      | 営業車のエコラン徹底・定着                                | 中       | C    |
| 5                                                                      | 機材使用による環境負荷の削減                               | 長       | B    |
| 6                                                                      | 水資源使用量の削減                                    | 長       | A    |
| 7                                                                      | 排水処理の適正化(アセスメント調査)                           | 長       | C    |
| 8                                                                      | 騒音の低減                                        | 中       | B    |
| 9                                                                      | 油種類の再生オイル業者への売却                              | 短       | C    |
| 10                                                                     | 廃棄物の適正処理(アスベストなど)                            | 短       | A    |
| 11                                                                     | 時間外労働削減(生産性向上)                               | 中       | A    |
| 12                                                                     | ハラスメントの無い職場環境・教育                             | 長       | B    |
| 13                                                                     | 事業所の不要物の整理・削減                                | 短       | C    |
| 14                                                                     | 事故・トラブルの撲滅                                   | 短       | A    |
| 15                                                                     | 個人情報、営業情報の管理徹底                               | 中       | C    |
| 16                                                                     | 多様な学習機会の提供                                   | 短       | A    |
| 17                                                                     | 地域社会と共生するための活動の充実                            | 長       | B    |
| 18                                                                     | コンプライアンス方針策定                                 | 短       | B    |
| 19                                                                     | ステークホルダーとのコミュニケーション方針策定                      | 短       | B    |
| 20                                                                     | 人権方針策定                                       | 短       | B    |
| 21                                                                     | 環境方針策定                                       | 短       | B    |
| 22                                                                     | 調達方針策定                                       | 中       | B    |
| 23                                                                     | コンプライアンス事象報告・集計体制                            | 中       | B    |
| 24                                                                     | ステークホルダーとのコミュニケーション事象報告・集計体制                 | 中       | B    |
| 25                                                                     | 人権に関する事象報告・集計体制                              | 中       | B    |
| 26                                                                     | 環境に関する事象報告・集計体制                              | 中       | B    |
| 27                                                                     | 調達に関する事象報告・集計体制                              | 中       | B    |
| 28                                                                     | 主要方針に沿った教育計画立案・準備                            | 中       | B    |
| 29                                                                     | 主要方針の伝達に関する面談実施                              | 中       | B    |
| 30                                                                     | BCPの精度向上                                     | 短       | A    |

重要課題の特定プロセス

当社が10年後に皆さまの「ベストパートナー」であるためには、「良き企業市民」であり続けなければなりません。そのために必要な重要課題を抽出しました。具体的には、企業活動に対して経済的、社会的および環境的側面から河崎運輸機工の果たすべき責任と社会への貢献がどのようにできるかをステークホルダー(お客さま・取引先・地域・社員)別、実施時期(短期・中期・長期)別に重要なアクションプランをまとめました。

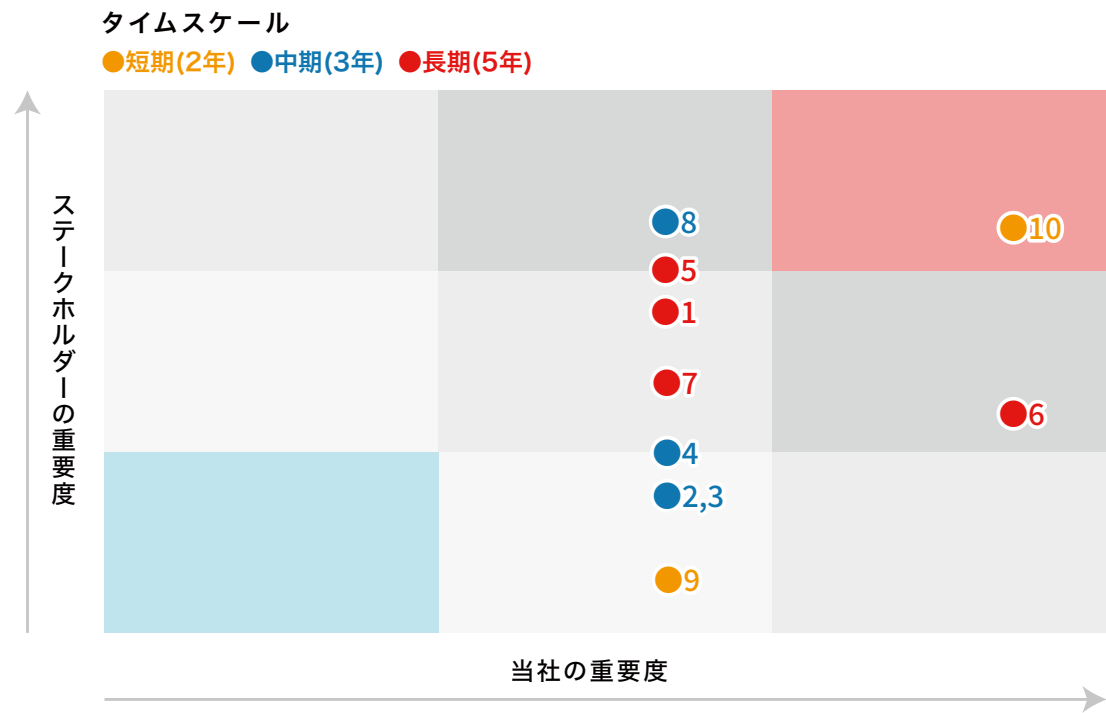
横軸が当社の重要度、縦軸がステークホルダーの重要度となっております。右上にいくほど、両者の重要度が高くなっています。



# 環境(E)に関するアクションと成果

トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果①

橙色の丸が短期(2年)、青い丸が中期(3年)、赤い丸が長期(5年)のタイムスケールを表しております。また、横軸が当社の重要度、縦軸がステークホルダーの重要度となっております。右上にいくほど、両者の重要度が高いものとなります。



## 当社のアクションプランとSDGsの関係性

当社は事業による環境負荷を抑制するためのアクションプランを策定しております。事業特性を考慮しアクションプランに基づいて、廃棄物と排水の適正処理(SDGsのゴール3、6、8、11、12)事業で使用する車両のエコ運転の徹底による排気ガスの排出と騒音の低減(SDGsのゴール7、11、12、13、15)そして更なる環境負荷の抑制のために、環境対応車への計画的移行(SDGsのゴール7、13)などに取り組んでいます。

## 環境(E)に関する事業部全体のSDGsの目標



# トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果②

下記の表は、環境(E)に関するアクションプランおよびそれに対するタイムスケール、着手状況、KPI、成果、関連するSDGs17の目標をまとめた一覧となります。現在の取り組み状況は、課題解決のために車両の排出ガスの状況調査とその整理などを行っております。また現在達成しているアクションプランにつきましては、これからも継続していきます。

## 着手状況について

A(取り組み開始予定または再強化を予定している項目) B(取り組みを開始した項目) C(前期以前から取り組みが定着している項目)

| アクションプラン                         | 部門  | タイムスケール | 着手状況 | KPI         | 成果                                                                                               | SDGs17の目標     |
|----------------------------------|-----|---------|------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 連絡車の環境対応車への計画的移行                 | 全部門 | 長       | B    | 調査・更新計画立案   | 営業用車両、クレーン以外の連絡車も含めた車両更新については、原則的には中古車購入としているので、車両更新時には極力HV仕様で進めている。(EV車については走行距離の問題もあり見合わせている。) | 7, 13         |
| 車両のCO <sub>2</sub> 、NOx・PM排出量の削減 | 全部門 | 中       | C    | 排出量把握・削減計画  | GHG(グリーンハウスガス)排出量としてデーターの取りまとめ、考察も入れて作成。期間はR3上期からR6下期まで整理している。                                   | 7, 13         |
| 連絡車のエコラン徹底・定着                    | 全部門 | 中       | C    | 測定・基準作成     | データーの測定中で基準をもとにCO2を計算中。(2023年7月より)                                                               | 12, 13        |
| 営業車のエコラン徹底・定着                    | 運輸  | 中       | C    | 測定・基準作成     | データーの測定中で基準をもとにCO2を計算中。(2023年7月より)                                                               | 12, 13        |
| 機材使用による環境負荷の削減                   | 工事  | 長       | B    | 負荷の特定・購入ルール | 負荷の特定済み。ルール策定はまだ。(負荷の種類を特定。今後は負荷量を計測し、削減に向けた検討を行う)                                               | 7, 12, 13, 15 |
| 水資源使用量の削減                        | 全部門 | 長       | A    | 現状調査        | 策定については未実施だが、水道使用量のデーターは取得中。(2023年7月より)                                                          | 12            |
| 排水処理の適正化(アセスメント調査)               | 全部門 | 長       | C    | 排水状況把握      | 負荷の特定済み。ルール策定はまだ。(負荷の種類を特定。今後は負荷量を計測し、削減に向けた検討を行う)                                               | 6, 11, 12     |
| 騒音の低減                            | 全部門 | 中       | B    | 各拠点の現状把握    | 宇部、倉敷の2事業所での騒音調査は実施し、データー取得済み。(騒音データー上では特に問題ない数字であった。)                                           | 3, 11         |
| 油脂類の再生オイル業者への売却                  | 運輸  | 短       | C    | 継続・マニフェスト保管 | 廃エンジンオイル、廃作動油については、オイル再生業者へ売却中であり、売却時のマニフェストについては各事業所で保管済みである。                                   | 12            |
| 廃棄物の適正処理(アスベストなど)                | 工事  | 短       | A    | 処理方法確認      | 発生都度、アスベスト処分許可取得会社に収運も含め処理依頼中。                                                                   | 3, 6, 12      |



車両燃費表を活用した指導の様子



運転診断結果を活用した指導の様子

## 環境(E)に関する集計データ

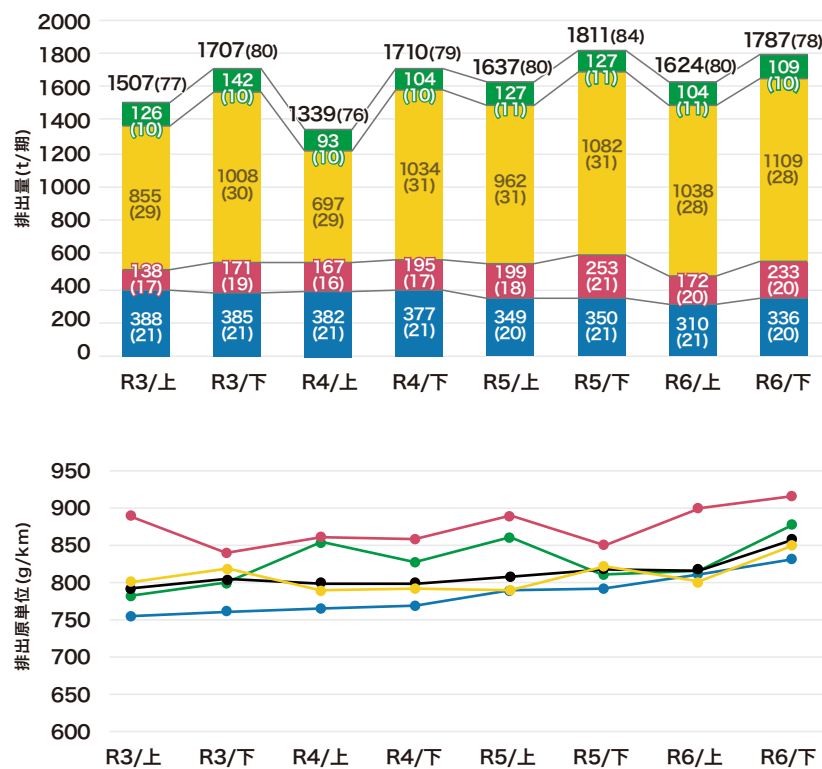
### CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)

集計期間  
2021年度～2024年度

凡例  
R3：2021年度 上：上期(4月～9月)  
R4：2022年度 下：下期(10月～3月)  
R5：2023年度  
R6：2024年度

### 1. 営業トラック

#### CO<sub>2</sub>排出量&排出原単位(営業トラック)



■宇部営業所  
■周南工流シティ営業所  
■周南支店  
■岩国市店  
■全社計  
( )稼働台数

CO<sub>2</sub>:R6下期の総排出量は1787t、排出原単位は858g/km

前年同期比で総排出量は-1.3%だが、排出原単位は+4.9%と増加

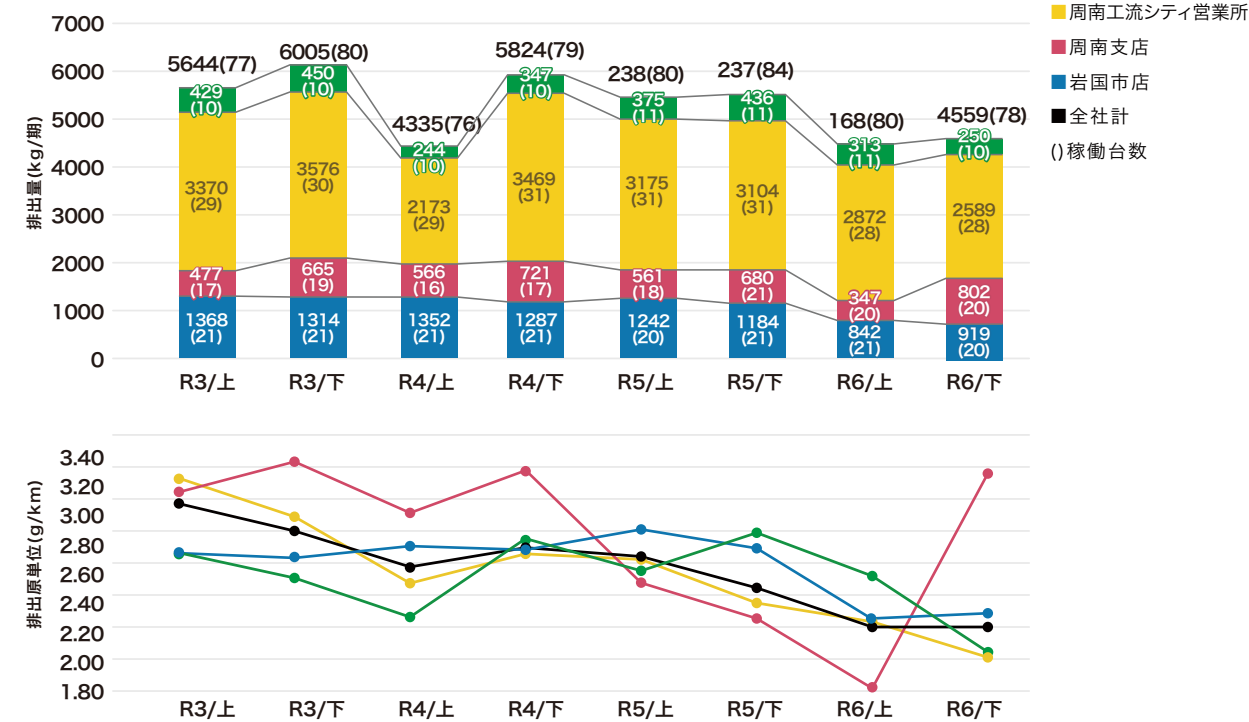
考察) CO<sub>2</sub>排出係数(2.58)では総排出量1760t、前年同期比-2.8%、排出原単位845g、同+3.3%となる。すなわち、総排出量は減少したが、原単位は増加した。これは、台数が減った(-4台)のことで、総燃料使用量が減り(-3.1%)、総排出量は減少した。しかし台当たり平均走行距離、燃料使用量とも増えており、原単位は増加した。総台数は減少したが、台当たり平均稼働率が増加したということである。

## NOx(窒素酸化物)&PM(粒子状物質)

集計期間  
2021年度～2024年度

凡例  
R3：2021年度 上：上期(4月～9月)  
R4：2022年度 下：下期(10月～3月)  
R5：2023年度  
R6：2024年度

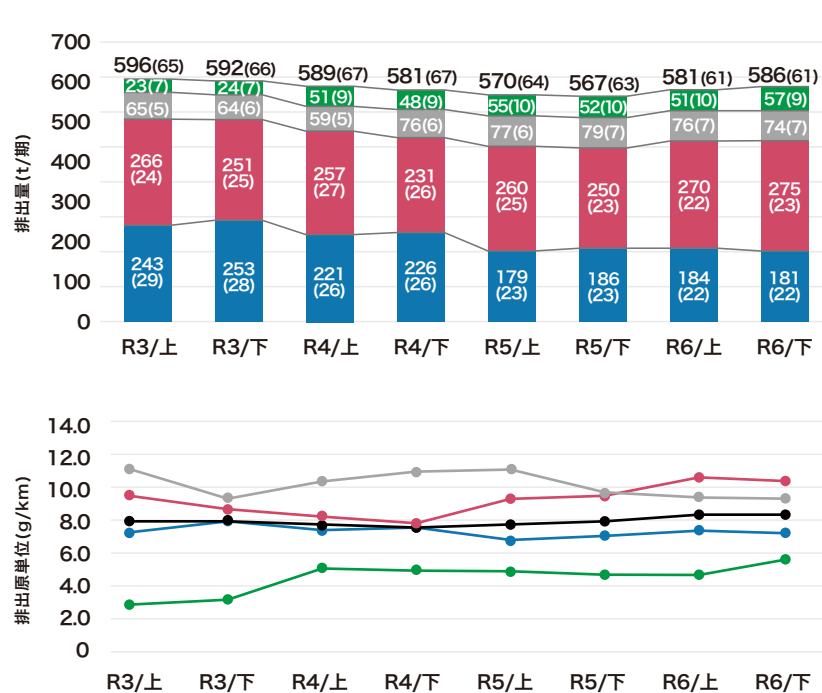
#### NOx排出量&排出原単位(営業トラック)



R6下期のNOxは、総排出量4559kg、前年同期比-15.6%。PMは総排出量180kg、同-24.1%と大きく減少した。排出原単位もNOxは2.19g/km、同-10.3%、PMは0.09g/km、同-19.3%といずれも減少した。マクロ的に見ても減少傾向にある。考察) 前年同期比で稼働台数、総走行距離(-6.0%)とも減少したことで、排出量、原単位はともに大きく減少した。さらに、旧規制車(KC-,KL-,ADG=低規制レベル)の台数減、稼働減も寄与している。ただし、KL-車の稼働が増大した車両がある周南支店はNOx、PMとも大幅な増加となった。

### 2. クレーン

#### CO<sub>2</sub>排出量&排出原単位(クレーン)

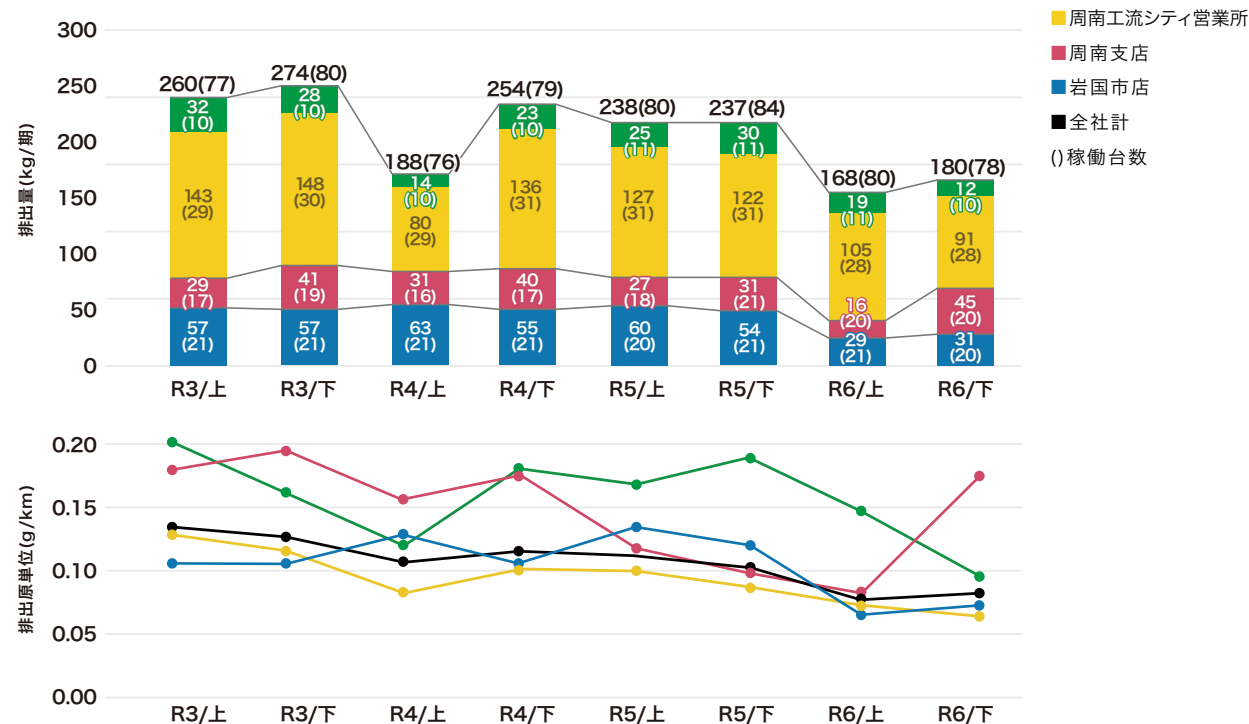


■宇部営業所  
■倉敷営業所  
■周南支店  
■岩国市店  
■全社計  
( )稼働台数

R6下期のCO<sub>2</sub>総排出量は586t、前期比+0.9%、台当たり平均排出量は9.61t同+0.9%であった。

考察) 総稼働台数は前期と同じ61台であり、台当たりの稼働が増えたことにより全体が増加したものと考えられる。

#### PM排出量&排出原単位(営業トラック)

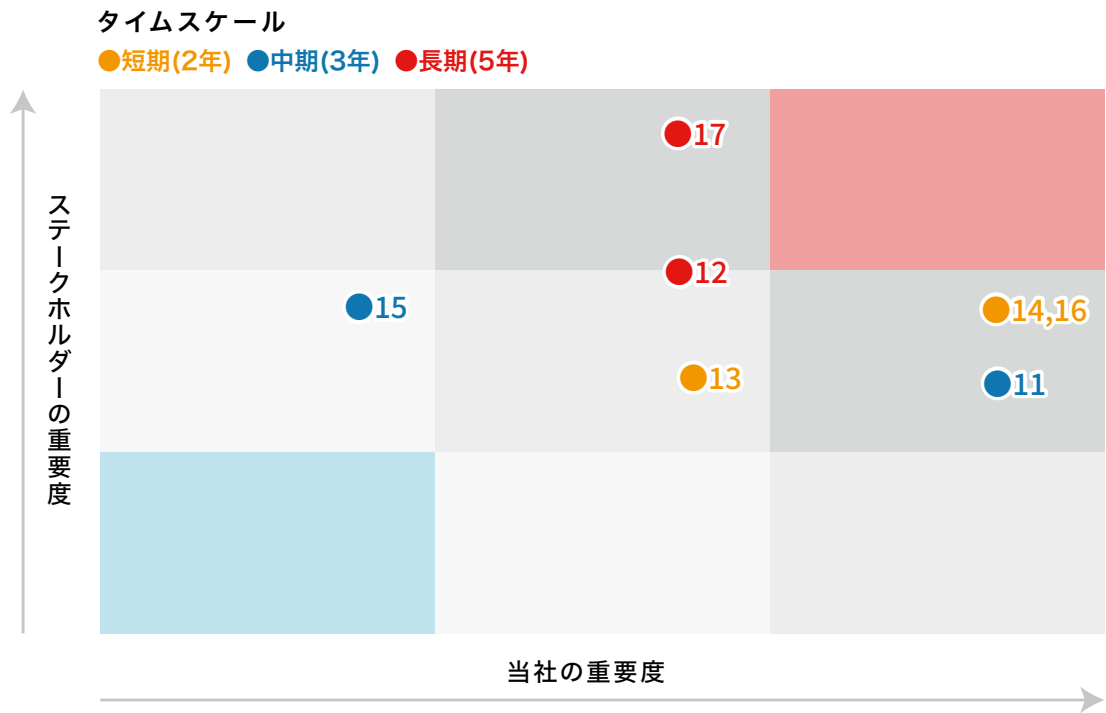


■宇部営業所  
■周南工流シティ営業所  
■周南支店  
■岩国市店  
■全社計  
( )稼働台数

社会(S)に関するアクションと成果

トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果①

橙色の丸が短期(2年)、青い丸が中期(3年)、赤い丸が長期(5年)のタイムスケールを表しております。また、横軸が当社の重要度、縦軸がステークホルダーの重要度となっております。右上にいくほど、両者の重要度が高いものとなります。



当社のアクションプランとSDGsの関係性

当社は事業による社会問題を抑制し、健康的な職場を創るためのアクションプランを策定しております。事業特性を考慮しアクションプランに基づいて、従業員への多様な学習機会の提供(SDGsのゴール4)ジェンダー平等による働きやすい職場づくりのためのハラスメント予防策の実施(SDGsのゴール3, 5, 8)などに取り組んでいます。

環境(E)に関する事業部全体のSDGsの目標



トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果②

下記の表は、環境(E)に関するアクションプランおよびそれに対するタイムスケール、着手状況、KPI、成果、関連するSDGs17の目標をまとめた一覧となります。現在の取り組み状況は、課題解決のために車両の排出ガスの状況調査とその整理などを行っております。また現在達成しているアクションプランにつきましては、これから継続していきます。

着手状況について

A(取り組み開始予定または再強化を予定している項目) B(取り組みを開始した項目) C(前期以前から取り組みが定着している項目)

| アクションプラン          | 部門    | タイムスケール | 着手状況 | KPI            | 成果                                                                           | SDGs17の目標 |
|-------------------|-------|---------|------|----------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 時間外労働削減(生産性向上)    | 全部門   | 中       | A    | 適正人員配置         | 生産性向上・適正人員配置に資するよう成人病予防健診を40歳以上が受診可能な制度を導入した。また、運転者の脳ドック受診制度を導入した。           |           |
| ハラスメントの無い職場環境・教育  | 全部門   | 長       | B    | 教育実施・内部通報制度    | 人権にかかる基本方針などを作成し、階層別研修の場をとらえ教育を実施している。内部通報制度を定め周知を行った。                       |           |
| 事業所の不要物の整理・削減     | 物流・工事 | 短       | C    | 5S教育・5S習慣などの啓発 | 安全衛生推進委員会で年X回啓発して各所で実施できている。                                                 |           |
| 事故・トラブル撲滅         | 全部門   | 短       | A    | リスク抽出と共有       | 各事業部での取り組みに加え、安全環境推進室でも事故・トラブルの分析を行い、リスクを抽出しようとしている。                         |           |
| 個人情報・営業情報の管理徹底    | 全部門   | 中       | C    | 規程運用本格開始       | 策定済みの情報管理規程に対して、実装可能となる見直しを行った。現在、業務主管の担当者による確認の段階である。                       | —         |
| 多様な学習機会の提供        | 全部門   | 短       | A    | 学習内容決定と全員受講    | 各層別の研修での学習内容を決定し、全員出席できるように計画している。また、外部の講演会なども広く紹介している。各種研修でeラーニングの利用を検討したい。 |           |
| 地域社会と共生するための活動の充実 | 全部門   | 長       | B    | 既存の活動の継続と拡充    | 既存の活動の継続に加えて、官公庁からの要請に応えて当社の活動を報告したり、地域行事への参加にあたり服装の見直しなどを行った。               |           |



NPO法人とりで様との連携  
当社では無事故日数×1,000円を活動資金として毎月支援する取り組みを続けています。

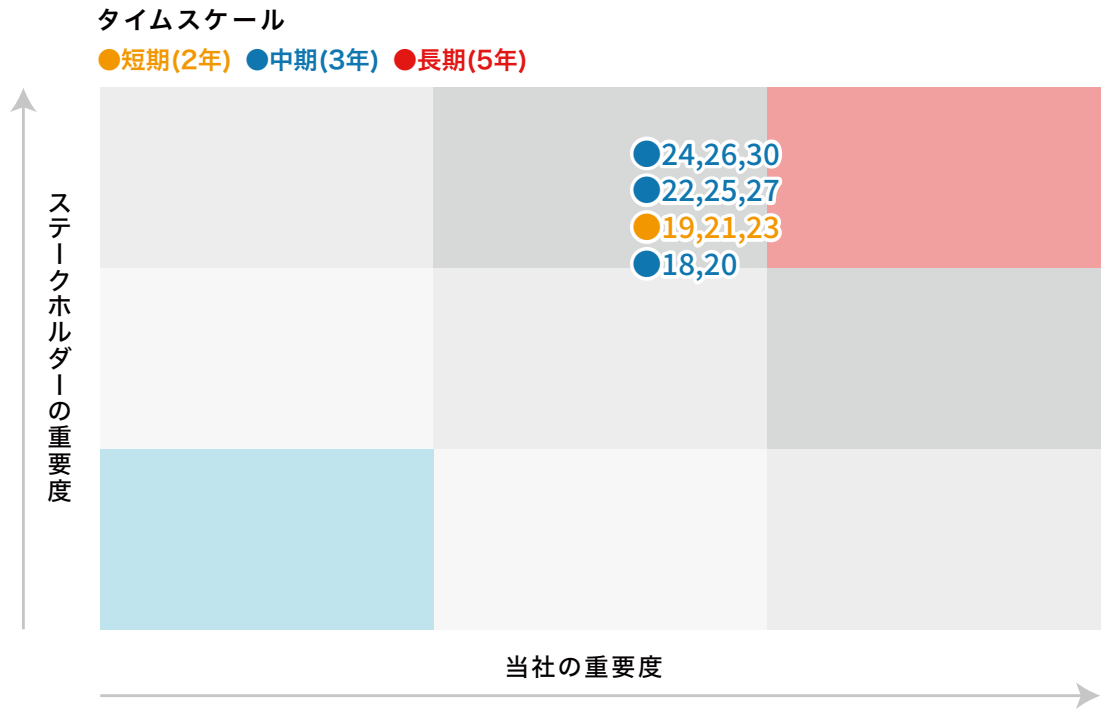


地域イベントへ参加している様子

組織統治(G)に関するアクションと成果

トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果①

橙色の丸が短期(2年)、青い丸が中期(3年)、赤い丸が長期(5年)のタイムスケールを表しております。また、横軸が当社の重要度、縦軸がステークホルダーの重要度となっております。右上にいくほど、両者の重要度が高いものとなります。



当社のアクションプランとSDGsの関係性

当社は経営陣の不適切なガバナンスから生じる環境問題や社会問題を予防するためのアクションプランを策定しております。当社は企業市民としての責任を自覚し、アクションプランに基づいてコンプライアンス、利害関係者とのコミュニケーション、人権、環境、調達に関する方針などを策定、運用しており(SDGsのゴール3, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17)、社会から信頼される組織づくりに取り組んでいます。

組織統治(G)に関する事業部全体のSDGsの目標



トップコミットメント・アクションプラン・KPI・成果②

下記の表は、環境(E)に関するアクションプランおよびそれに対するタイムスケール、着手状況、KPI、成果、関連するSDGs17の目標をまとめた一覧となります。現在の取り組み状況は、課題解決のために車両の排出ガスの状況調査とその整理などを行っております。また現在達成しているアクションプランにつきましては、これからも継続していきます。

着手状況について

A(取り組み開始予定または再強化を予定している項目) B(取り組みを開始した項目) C(前期以前から取り組みが定着している項目)

| アクションプラン                     | 部門  | タイムスケール | 着手状況 | KPI          | 成果                                        | SDGs17の目標 |
|------------------------------|-----|---------|------|--------------|-------------------------------------------|-----------|
| コンプライアンス方針策定                 | 全部門 | 短       | B    | 基本方針に基づく方針策定 | 2024年からコンプライアンス順守を含む「わたしたちの行動指針」を策定し、運用   |           |
| ステークホルダーとのコミュニケーション方針策定      | 全部門 | 短       | B    | 基本方針に基づく方針策定 | 2024年から「わたしたちの行動指針」および「サステナブル調達指針」を策定し、運用 |           |
| 人権方針策定                       | 全部門 | 短       | B    | 基本方針に基づく方針策定 | 2023年に策定済み。今後の周知徹底及び研修にどのように取り入れていくか検討    |           |
| 環境方針策定                       | 全部門 | 短       | B    | 基本方針に基づく方針策定 | 2023年に策定済み。今後の周知徹底及び研修にどのように取り入れていくか検討    |           |
| 調達方針策定                       | 全部門 | 中       | B    | 基本方針に基づく方針策定 | 2023年に策定済み。今後の周知徹底及び研修にどのように取り入れていくか検討    |           |
| コンプライアンス事象報告・集計体制            | 全部門 | 中       | B    | 運用状況の検証と見直し  | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  |           |
| ステークホルダーとのコミュニケーション事象報告・集計体制 | 全部門 | 中       | B    | 運用状況の検証と見直し  | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  |           |
| 人権に関する事象報告・集計体制              | 全部門 | 中       | B    | 運用状況の検証と見直し  | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  |           |
| 環境に関する事象報告・集計体制              | 全部門 | 中       | B    | 運用状況の検証と見直し  | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  |           |
| 調達に関する事象報告・集計体制              | 全部門 | 中       | B    | 運用状況の検証と見直し  | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  |           |
| 主要方針に沿った教育計画立案・準備            | 全部門 | 中       | B    | 対象・教育内容検討    | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  | —         |
| 主要方針の伝達に関する面談実施              | 全部門 | 中       | B    | 面談材料の作成・準備   | 現行の規程、方針を周知を行うとともに、来期までに具体的な報告・集計体制を構築する  | —         |
| BCPの精度向上                     | 全部門 | 短       | A    | 全社対応に一元化     | 2025年10月から規程に基づき仮運用開始                     |           |

# 社員の声



三菱ケミカル事業所  
大坪 豊 さん

**現場監督として：**工事の受注対応から見積作成、現場確認と安全打ち合わせ、必要資機材の段取り、作業員への指示出し、進捗・工程管理までを担当しています。作業中はリスクを洗い出し、保護具や使用工具の適否を確認します。想定外があればお客様と相談し、増員や残業などのリカバリーも含めて、工期と安全を両立できる進め方を組み立てます。

**仕事を通して：**工場内で使われる専門用語や機器・配管の種類、特性への理解が深まりました。入社当初は戸惑う場面も多かったのですが、今では作業員の方から「この工程はどう進めたらいい？」と相談を受けることも増え、少しずつ任される範囲が広がっていると感じます。小さなミスも大きな事故につながるため、過去のヒヤリハット体験を教訓に「伝え漏れをなくす・ルールを徹底して共有する」ことを常に意識しています。

**資格取得について：**社内で勉強会の機会や出席調整があり、受験しやすい環境です。受験費用についても規定回数（目安として2回まで）の会社補助があり、挑戦のハードルを下げてくれています。実務と学習を行き来しながら知識を定着できるのが強味です。

**社内研修について：**工事の専門教育や外部講師によるCAD講習、チームで意見をまとめて発表するワークなど、実務に直結する内容が中心です。知識インプットはオンライン併用、討議・発表型は対面というように、テーマに応じて形式を使い分けられると、さらに効果が高まると感じています。

**これからの目標：**「段取り力」を磨くことが目標です。必要な道具や人員を先回りで用意し、現場で滞りが出ない計画を組める監督へ。経験と知識を積み重ね、より安全で無駄のない工程管理を実現していきたいと思います。



岩国支店  
田畑 祥哉 さん

**営業担当者として：**クレーンリースやトラック運搬の段取りを担当しています。現場の下見や打ち合わせを行い、お客様と相談しながら作業が安全に進むよう調整するのが主な仕事です。現場の状況を確認しながら臨機応変に対応することが求められるので、日々学ぶことが多いです。

**会社の魅力：**働きやすい環境が整っていることだと思います。休みも取りやすく、オンとオフの切り替えがしやすい職場です。また、地域貢献にも力を入れており、子ども食堂の支援など、地域と関わる活動を積極的に行っている点もこの会社の素晴らしいところです。職場の雰囲気は明るく、上司や先輩にも気軽に相談できる環境があります。困ったことがあっても周りがすぐに助けてくれるので、安心して仕事に取り組むことができます。チーム全体で協力し合いながら動ける、まとまりのある職場だと思います。仕事とプライベートのバランスもとやすい職場です。大事な現場があるときは仕事を優先しますが、休めるときはしっかり休んで気持ちを切り替えています。無理のない働き方ができるので、日々前向きに仕事に臨めています。

**これからの目標：**危険物取扱者や運行管理者の資格を取得し、将来的にはクレーンの操縦免許にも挑戦したいと考えています。実際に運転することはなくても、知識として持っておくことで業務の幅が広がり、より信頼される営業担当者を目指していきたいです。



出光徳山構内事業所  
本多 友範 さん

**プラント内での点検・保全業務担当として：**主にタンクや配管、ポンプの点検を行い、設備の安全を守る仕事です。西と東に分かれたエリアのうち、私は東側を一人で担当しています。責任もありますが、任せてもらっていることにやりがいを感じています。日々の作業を通して、わずかな異変や音の違いに気づけるようになり、自分でも成長を実感しています。

**会社の魅力：**さまざまな職種があり、いろんな人が活躍できるところだと思います。幅広い分野の仕事があるので、自分に合った道を見つけやすい環境です。職場の雰囲気も穏やかで、年齢の違う仲間とも話しやすく、安心して働いています。

制度面では、有給休暇が取りやすく、子どもが急に熱を出したときなども柔軟に対応してもらえるので助かっています。家庭と仕事を両立しやすい環境が整っており、安心して長く働ける会社だと感じています。

**資格取得について：**フォークリフトや玉掛けなどの資格を入社してすぐに取りせてもらいました。勉強の時間も業務の中で確保してもらえたので、とても取りやすかったです。会社全体として、学びやすい環境を整えてくれていると思います。

**これからの目標：**事業所に必要とされる資格を自分でも取得し、いざというときに頼られる存在になりたいです。自分の経験を活かして、後輩たちにも安心して仕事を任せてもらえるよう、これからも成長していきたいと思っています。

この度は、インタビューにお答えいただき誠にありがとうございました。

今回掲載できなかった社員の皆さまにもお礼申し上げます。

## インタビューに答えていただいた皆さま

- |            |          |              |          |
|------------|----------|--------------|----------|
| ●周南支店      | 岩本 俊哉 さん | ●周南工流シティー営業所 | 浦田 浩二 さん |
| ●岩国支店      | 田畑 祥哉 さん | ●三菱ケミカル事業所   | 金田 僚介 さん |
| ●出光徳山構内事業所 | 林 省次 さん  | ●三菱ケミカル事業所   | 大坪 豊 さん  |
| ●出光徳山構内事業所 | 本多 友範 さん | ●ダイセル事業所     | 当田 健太 さん |

# ステークホルダーコメント

## Stakeholder Comments

### ステークホルダーコメントについて

当社では本レポートの発行にあたり、社外の方に第三者コメントをいただいております。社外の方から、レポートを通して当社のサステナビリティのための取り組みについて評価いただき、取り組みの課題などをご指摘いただくとともに、本レポートの内容の信頼性、透明性を高めることを目指しています。



### 日本政策金融公庫 下関支店長 堂脇 慎 様

同公庫下関支店は、山口県下の中小企業事業を一括して担当しておられます。

河崎運輸機工株式会社様のサステナビリティに対する指針については、①経営の根幹をなす「経営理念」「社是」「スローガン」それぞれの定義と関係性が明確化されていること、②サステナビリティに関して果たすべき役割や課題が、環境(E)・社会(S)・組織統治(G)ごとに整理され、それぞれ具体的かつ実践的なアクションプランに落とし込まれていること、③各アクションプランの重要度を自社とステークホルダー双方の視点からプロットすることにより「見える化」が図られていること等、実行性の高いものとなっています。

ESGにおけるそれぞれの取り組みを個別に検証すると、「環境」については、データに基づいてアクションプランが策定されており、また、既に定着している施策も多いなど、環境経営の基盤が構築されているものと評価されます。今後は、データとアクションプランをより綿密に連動させ、一層の実効性向上を図っていただきたいと思います。「社会」については、安全管理の徹底、職場環境の改善、地域社会へのコミットが謳われています。社会環境の変動が続くなか、いずれの項目も持続的な企業成長を図るうえで重要なファクターとなります。継続的な取り組み強化を期待します。「組織統治」については、取締役会を中心に適切な業務執行体制が整備されているとともに、社外監査役制度の導入により透明かつ健全な組織統治が担保されています。

各アクションプランの着手状況についても、既に取り組みを開始したとする項目が大半を占めている状況にありますので、今後の着実な実行と定着を期待します。今回で2回目の発刊となるサステナビリティレポートは、地域のリーディングカンパニーである河崎運輸機工株式会社様がCSRに対する自社の取組みをステークホルダー向けに開示、発信するもので、ステークホルダーに対して積極的にコミットしようとする姿勢は高く評価されます。また、社会環境の変化に合わせCSRへの取組みにもブラッシュアップが求められますので、今後も十分な課題認識と強い改善意欲を維持するとともに、全社的な活動として環境や社会と調和した持続的な成長に取組んでいかれることを期待しております。

## 当社サステナビリティに関する来期の展望

河崎運輸機工株式会社では、来期のサステナビリティへの取り組みについての展望を以下のとおりと考えています。環境問題や社会的な課題への意識が高まる中、企業としての責任を果たすべく、前期に引き続きサステナビリティを経営の中心に捉え、企業運営を進めていく決意を新たにしています。来期においては、特にE(環境)・S(社会)・G(組織統治)について取り組みます。環境負荷の低減についてはCO<sub>2</sub>の排出量の削減、リサイクル可能な素材の使用拡大、再生可能エネルギーの導入検討に向けて当社の各部門がKPIを意識したうえで、一丸となって推進します。社会貢献については、今まで以上に地域社会への感謝の心を念頭におき、取り組みます。また、社員に向けては多様性と包摂性を重視した企業文化を育み、働きやすい環境の整備も進めます。最後に、ステークホルダーとの対話をより深めるとともに、透明性とガバナンスを強化し、各種制定した方針に対して十分理解し実践します。そして、企業の信頼性と成長を支え、持続可能な社会の実現に向け一層の努力と決意で取り組みます。



### アドバイザーコメント

北海道国立大学機構 小樽商科大学大学院 准教授 泉 貴嗣

河崎運輸機工の1回目のレポートはいわば「パイロット版」ともいうべき位置づけでした。今回の発行までに同社は少しずつですが、着実にESGに関する取り組みを進めています。とりわけ山口県内の企業としてはESGの特にG(組織統治・ガバナンス)を重視して、それを公表している点は特筆に値します。そして、今回は定性的な取り組みの報告が主でしたが、3回目はESGのアクションプランを加速させ、定量的なパフォーマンスを多く報告できるように成長することを期待しています。

## 編集後記

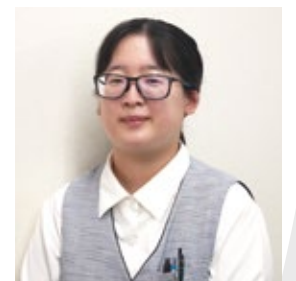


### 統括管理部 水田 皓大

このたびは、河崎運輸機工サステナビリティレポート2024をお読みいただきありがとうございます。さて、今回で2回目の発行となるレポートですが、項目を増やしたり、減らしたり、また増やしたりで苦労はしましたが、充実した内容になったと思います。上記のアドバイザーコメントでは、次号はさらに多くの報告を期待しているとのことで、今から身とともに胃までもが引き締まる思いです。期待に応えるとともに、今後も読者の皆さまに当社の持続可能性についてお伝えできればと思います。最後にこの場を借りて制作に協力してくださった皆さまにお礼を申し上げます。

### 統括管理部 鬼塚 貴会

このたびは、当社のサステナビリティレポートをお読みいただき、誠にありがとうございます。2号目となる今回は、「対談企画」や「社員の声」など、新たな項目の作成にも挑戦しました。これらの準備にあたっては、情報収集や整理に苦労することもありました。しかし、プロジェクトチームの協力に支えられ、伝えたいことをしっかり詰めることができたレポートにできたと思います。今後も改善を重ね、皆さまへより伝わるレポートづくりを目指していきます。



## 河崎運輸機工サステナビリティレポート2024

|               |                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------|
| 発行年月日         | 2026年1月1日                                        |
| 発行者           | 河崎運輸機工株式会社                                       |
| ブックデザイン       | 合同会社アクト・スリー                                      |
| デザイン監修        | 株式会社 BRIDGE                                      |
| 問い合わせ先(統括管理部) | TEL 0827-22-0172<br>MAIL sus@kawasakiyunyu.co.jp |



河崎運輸機工HP  
<https://www.kawasakiyunyu.co.jp/>